

平成30年(2018年)1月27日(土曜日)

責争

戸収

乗戸

戸収

三島・西街区土地売却で市長

「鑑定に基づき手続き」

三島市の豊岡武士市長は26日、三島駅南口西街区の広域観光交流拠点整備事業で、土地の売却価格が不当に安価だったと地元のNPO法人が主張していることについて、「不動産鑑定士による鑑定を経ており、不当な行為などはあり得ない。事業も法律に基づき確に進めてきた」と述べた。定例記者会見で答えた。

400平方メートルを、プロポーザル審査で事業者に選ばれた東急グループ(東京)が4億8100万円で購入した。ホテルが建設される。

売却価格に異論を訴えるのはグラウンドワーク三島で、同団体は同日夜、自らの主張を説明する勉強会を市内で開いた。市民ら25人ほどが参加した。渡辺豊博専務理事は独自の鑑定結果では2倍近い額が付いたなどと指摘し、住民監査請求を起す考えを示した。

指摘があるのは市土地開発公社所有の3100平方メートルで、鑑定で1平方メートルあたり約12万6千円と評価された。市が所有する1平方メートルあたり約26万円の隣接地260平方メートルと合わせた計約3

指摘があるのは市土地開発公社所有の3100平方メートルで、鑑定で1平方メートルあたり約12万6千円と評価された。市が所有する1平方メートルあたり約26万円の隣接地260平方メートルと合わせた計約3